artience

BIZ SAITAMA　技術ニーズ説明資料

2025.05.28

CONFIDENTIAL

本日の資料内容

- 会社概要
- オープンイノベーションの取組み
- 技術ニーズ説明

CONFIDENTIAL

会社概要

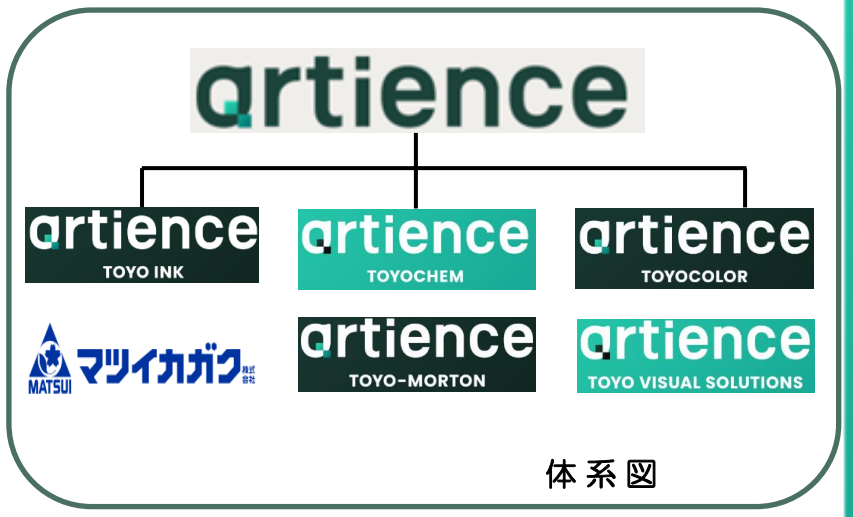
Empowering Feeling

artience

2024年1月1日、
東洋インキグループは"artience"へ

2024年1月1日、
東洋インキSCホールディングス株式会社はartience株式会社に商号を変更しました。

artienceグループは、変わりゆく時代のニーズ・課題を先んじて見つけ出し、一人ひとりが主役となり、世界の人々に先端の技術で先駆の価値を届ける会社へと変革するという強い決意のもと、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様への約束として、Brand Promise「感性に響く価値を創りだし、心豊かな未来に挑む」を制定しました。



体系図

※事業会社の商号は変更いたしません。

会社概要

artienceグループの歴史

日本インキ業界初の株式会社組織の誕生

- 1896 — 創業
- 1906 — 顔料生産を開始
  無機顔料やレーキ顔料
- 1907 — 東洋インキ製造株式会社設立

京橋本社（1910年頃）

インキ会社から化学メーカーへ

顔料・ポリマーを自製化、多角的に乗り出す

- 1920 — アゾ顔料の自製化
  有機顔料の完全合成に成功
- 1926 — 上海に海外初の出張所を設立
- 1937 — フタロシアニンブルー顔料の生産を開始
  後の電子材料分野進出への足掛かりのひとつに
- 1951 — ポリマー技術の獲得
  インターケミカル社（現BASF社）と技術提携契約を締結

フタロシアニンブルー顔料

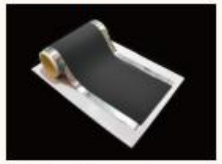
ポリマー（イメージ画像）

スペシャリティケミカルへの進化

技術を磨きあげ、多様な分野に高機能製品を展開

- 1992 — 液晶ディスプレイ用カラーレジストインキを開発
- 2011 — 持株会社制に移行
  東洋インキSCホールディングス株式会社に改称
- 2012 — リチウムイオン電池正極材用分散体を開発
- 2016 — メディカル事業に参入

カラーレジストインキ


リチウムイオン電池用分散体

「感性に響く価値」を届ける会社へ

- 2024 — artience株式会社 始動
- 2027
- 2030
- 2050

経営計画 artience2027/2030 "GROWTH"

サステナビリティビジョン asv2050/2030

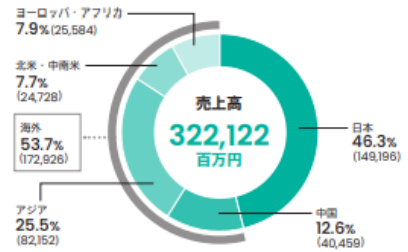
about us 会社概要

artience株式会社 artience Co., Ltd.

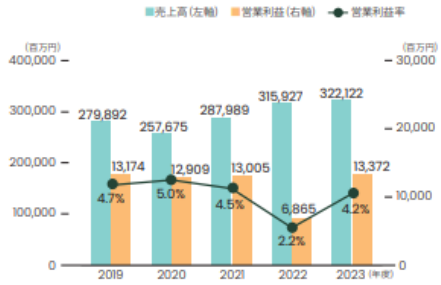
本社所在地	〒104-8377 東京都中央区京橋2丁目2-1
創業	1896年（明治29年）1月
設立	1907年（明治40年）1月15日
代表者	代表取締役社長 グループCEO 髙島 悟
資本金	31,733百万円
関係会社	国内13社、海外48社 （連結子会社数56社、持分法適用会社数5社）
社員数	（連結）7,897名 （単体）377名
ウェブサイト	https://www.artiencegroup.com

2025年3月末現在
（社員数は2024年12月末現在）

■地域グループ別売上高（百万円）

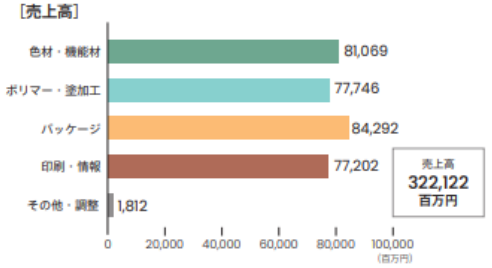


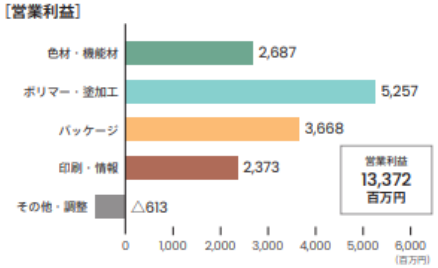
■売上高、営業利益、営業利益率



グループ企業概要（2023年12月31日現在）

■事業セグメント別売上高・営業利益





経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	売上高営業利益率	ROE
12,880百万円	9,737百万円	4.2%	4.2%

CONFIDENTIAL

会社概要

色材・機能材関連事業

色材設計技術と分散技術を組み合わせることで、ディスプレイ・センサー用のカラーレジストや、リチウムイオン電池正極材用導電カーボンナノチューブ分散体など、さまざまな分野に機能性材料を展開しています。

主な製品	主な用途
有機顔料	印刷インキ、自動車用外装塗料、プラスチック用着色剤
機能性分散体	リチウムイオン電池
表示材料	フラットパネルディスプレイ、イメージセンサー
プラスチック用着色剤	パッケージ、自動車、OA機器・電化製品
インクジェットインキ	段ボール、ラベル、看板、オンデマンド印刷(POD)

ポリマー・塗加工関連事業

ポリマー設計技術と塗加工技術を用い、素材から開発できる強みを活かしてエレクトロニクスや半導体、メディカル分野などに先端の製品を提供し、また様々なサステナビリティ貢献製品の開発にも注力しています。

主な製品	主な用途
粘着剤・接着剤	ラベル、パッケージ、エレクトロニクス、太陽電池
機能性フィルム・テープ	エレクトロニクス、工業用両面テープ、看板用マーキングフィルム
コーティング製品	飲料・食用缶、エレクトロニクス、コンクリート建造物
メディカル製品	経皮吸収型製剤、生体適合樹脂
天然材料	食用天然色素、飼料、化粧品

パッケージ関連事業

水性・無溶剤・バイオマス・リサイクル促進などさまざまな角度から環境対応製品を提供し、人びとの安全で豊かな生活と自然環境への配慮を両立することで、持続可能な社会の実現に貢献しています。

主な製品	主な用途
グラビアインキ	食品パッケージ、建装材、工業用部材
フレキソインキ	各種フィルム包装、段ボール、紙器

印刷・情報関連事業

artienceグループの原点であり、情報インフラを支える大切な事業です。長年培ってきた技術を応用し、エレクトロニクス用の機能性インキを開発するなど、新たな印刷の可能性に挑み続けます。

主な製品	主な用途
オフセットインキ	新聞、チラシ、書籍、雑誌、紙器、シール・ラベル
スクリーンインキ	パッケージ、エレクトロニクス
金属インキ	飲料・食用缶

オープンイノベーションの取組み

■次期事業開発につなげる技術開発の構造

未来潮流

モビリティ・バッテリー市場	ディスプレイ・先端エレクトロニクス市場	次世代製品市場	環境規制強化

内部資源の活用

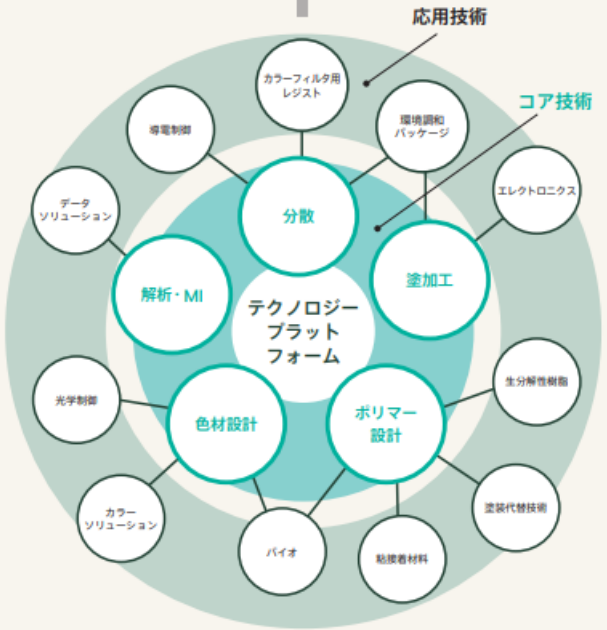
保有技術を効率的に活用

- テクノロジープラットフォームのAI化
- 技術者のつながり強化
- チャレンジする風土の醸成
- 強い知財活用

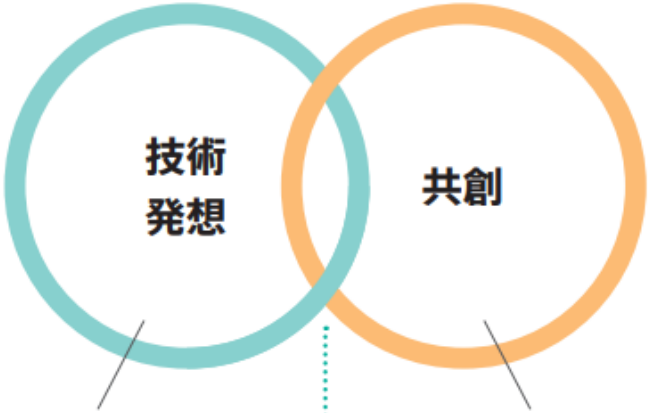
不足技術の獲得

外部の知恵を積極的に活用

- 海外・国内スタートアップ
- 大学技術（海外・国内）
- パートナー企業とのオープンイノベーション
- NEDO／アカデミア



課題解決につながる新製品開発



独自のコア技術と成長性

色材設計、ポリマー設計、分散、塗加工などに関する独自かつ高度な技術力

パートナーとの共創

堅固な信頼関係を培ってきたパートナーとの共創が生み出す、ニーズに合致した価値提供力

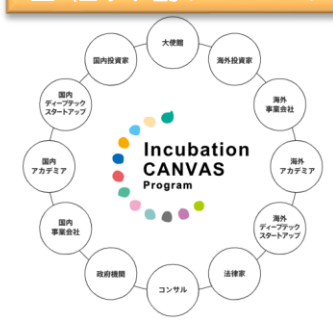
価値創造の基盤となる強み

短期開発 事業会社技術部門 → 中期開発 事業会社研究所 → 長期開発 ホールディングス研究所

マーケティング・事業企画
インキュベーションセンター

専任部隊が全カテゴリを先導

自社共創スペース



様々な属性のプレイヤーによるグローバルコミュニティを形成し、優れたサイエンス・テクノロジーを社会に届ける挑戦者とともに未来を描く活動を支援します。

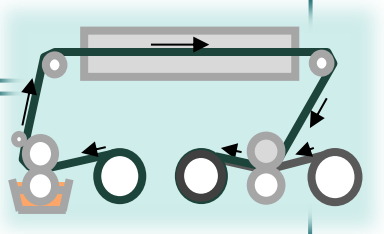
マッチングイベント

社内ビジコン

CONFIDENTIAL

東洋モートン㈱概要とニーズ背景

会社概要	■代表者：小林雄一　■社員数：107名（2023年12月末）　■売上高（2023年度）：149億円　※グループ連結195億円
品種概要	■各種接着剤の製造・販売　（主にポリウレタン接着剤）
主要製品	■ドライラミネート用接着剤 ■無溶剤ラミネート用接着剤　既存事業 → 1975年に米Morton社（現Dow）と合弁で事業をスタートし、日本シェアNo.1 ■ディスペンサー供給型接着剤　新規事業
主要用途・市場	■食品パッケージ（菓子、レトルト食品） ■サニタリー（医療パッケージ、詰替包材） ■エネルギー（LiB電池、太陽電池） ■モビリティ（自動車関連部品）



- ディスペンサー供給型接着剤：粘度が高く、フィラーとの混練りが必要
- ラミネート用接着剤：粘度が低く、フィラーとの混練りは不要

現状当社製造設備はラミネート用接着剤に特化しており、高粘度でフィラー混練り可能な設備が無い

CONFIDENTIAL

技術ニーズ概要

無機系フィラーと有機樹脂との混練り加工の生産委託先募集
具体的には 2液ウレタン系接着剤の製造

対象のウレタン系接着剤　概要

接着剤種		2液ウレタン系無溶剤型接着剤 主剤：ポリオール系 硬化剤：イソシアネート系
接着剤性状	粘度	数100Pa･s 想定
	フィラー径	0.2～100μm 想定
充填形態		ペール缶(20kg)、ドラム(200kg) 想定
予定生産数量		50～160,000L / 年 想定（複数案件あり）
予定生産開始時期		早ければ2026年3月ごろ

想定される生産工程

工程		内容	要求品質
①	フィラー 表面処理	②の混練り工程でのフィラー分散をし易くするためにフィラー表面を処理	処理後、フィラー表面は十分に乾燥された状態であること フィラー表面へ均一処理出来ていること
②	混練り （ペースト化）	①の処理済フィラーと樹脂とを均一分散させ、接着剤として仕上げる	仕上げ段階で空気が十分に抜けていること（気泡、水分の除去）
③	充填	②の接着剤を空気等の巻き込みなく充填させる	空気（湿気）の巻き込みなしでの充填出来ること

- ✓ 理想は①～③の一貫生産が可能であることですが、①のみ、または②＋③のみのご提案でも可能です
- ✓ 上述の他に考えられる生産工程の案などございましたら、ご提案頂きたく存じます